

そうだ。ロープを登れない彼にフードを殺せるわけがないんだ。

肩の上がない母親、足をくじいたアンバー。

誰もロープを登れないなら、誰も階段を登っていないのなら、誰がフードを殺せる？

きつくしばられたロープの痕。空席の容疑者。

全ての証拠が嫌な事実を脳裏に浮かび上がらせる。

私はさらに激しい頭痛に襲われた。

「どうして—くれなかった？」

先ほど私を起こした声が、私に再度語り掛ける。

もっと、もっと、もっともっと思い出たくないものを私は思い出そうとしている。

がんがんと頭蓋の中を跳ね回るような頭痛が次第にハッキリとしていく。

言葉が頭の中に浮かび上がる。

拝啓。

いちばんたいせつなコートへ。

いきなりこんな手紙を読ませてごめんね。

別に何か特別なことがあったわけじゃないんだ。

むしろ—、特別なことが起こらないと知ってしまった……ってほうが正しいのかな？

昨日はさ、なんてことない日だったんだ。

世界はいつもと同じで灰色に染まっていて、

視界に映るのは地面とアスファルトばかりでさ、

なんで苦しいのか分からないほどに、たくさんのものが私を責めている気がしたんだ。

無責任に光る太陽の日差しがうっとうしくて。

逃げるように入ったコンビニでクジを何枚かもらったんだ。

なんのキャンペーンかは忘れたけどさ、

私にはそれが救いのように思えて、財布から10円玉を出して削ったんだ。

『はずれ』の文字が浮き出てくるたびに、

……騙されたような気がしてしまっさ。

その気持ちを拭おうと焦って、急いで急いで削るんだけど、

気持ちはゆっくりと蝕まれていくばかりで、さ。

今日はとっても楽しい1日だった。

アンバーおねえちゃんとコートとシロが、私のことをこんなにも大切にしてくれてうれしかった。

だけど私はさ、気づいちゃったんだ。

私が……、こんな人間だって。

ちょっとだけでいいからさ、声を出して読み上げてみてよ。



わたし  
私はまともじゃない  
わたし  
私はずっと何かを心配しています

あし  
足のつかないプールで溺れているように感じます  
あたま  
頭に石ころが詰まっているかのように重たいです

かんぺき もと しつぱい  
いつも完璧を求めて失敗ばかりしてしまいます  
め まえ おお かべ  
目の前に大きな壁があるような気持ちです

しつぱい  
失敗したことをばかりを思い出してしまうんです  
わたし  
私は誤解されてしまっているんじゃないでしょうか

わたし  
私は無力だと思っています  
じきつ おも  
自殺したいと思うと楽になります

どうしてこんなことになってしまったのでしょうか  
わたし  
私は価値のない人間です

なか  
お腹がちくちくと痛い  
だれ しん  
誰を信じていいのかが分かりません

わたし  
私はきつと疲れているんです  
こころ おお  
ずっと心が落ち着かない

だからさ、もう終わりにしたかったんだ。  
たの  
楽しいままで、終わりたかったんだ。

したい  
死体はコートに最初に見つけてほしかったんだ。  
だって、ちょっと変な顔してたらいやだし。  
って、冗談。  
.....。

わたし  
私は自分の傷の治し方が分かりません  
わたし  
私は空っぽなんです

し  
死ねば全てから解放されるとおもっています  
どうすればいいのかが分かりません

ずっと顔を隠していたいです  
ずっと間違えているように感じてしまいます

わたし  
私は気が狂っているみたいです  
きずぐち  
傷口をずっと綿で擦られているように痛いです

ぜんしん け  
全身の毛が逆立っています  
どこで間違えたのかが思い出せません

じきつ  
自殺したい  
あたま  
頭の病気が治らない

こきゅう  
呼吸が浅くて苦しいです  
すべて  
全てを投げ出してしまいたいと感じます

はや らく  
早く楽になりたい  
いま  
今すぐ自殺したい



A young woman with long brown hair in a braid, wearing a white short-sleeved shirt with a red heart, a dark pleated skirt, and red shoes, is bowing deeply. She is in a room with a calendar on the wall, a desk with books, and a lamp. The text "「……よわくて、ごめんね」" is overlaid on the image.

「……よわくて、ごめんね」